



相手に生きる

学校教育目標 「相手に生きることによって自己を生かす」
西中スタンダード 「あいさつ」「歌」「清掃」「花」「服装」「時間」

平成30年度 学校自己評価報告

2学期末に実施させていただいた学校自己評価アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。アンケートの結果については、裏面に掲載させていただいておりますのでご覧ください。学校自己評価より見えてきました今年度の成果と課題につきましても、よりよい学校づくりのために、残された3学期と次年度の学校運営に活かしてまいります。今後とも、本校の教育活動へのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

◆生徒・保護者アンケートの結果より◆

【主に学校生活に関すること】

昨年度同様、90%以上の生徒が『学校が楽しい』と答えていて、家庭でも同様にとらえられています。少数であっても「あまり楽しいと感じない」生徒がいるという視点から、学校環境適応感尺度（アセス）調査の活用やスクールカウンセラーの拠点校配置を生かした教育相談の充実を更に進め、個々の生徒を大切に見守ってまいります。また、本校が大切にしている福祉交流活動、人権教育、道徳や学級活動で人の温かさや優しさに触れる授業を多く行っていることが、『思いやりや協力』といった項目での生徒の積極的な評価につながっていました。

『服装・身なり』『挨拶』『時間』『歌声』についての肯定的な回答は、生徒による自治を理念とした『生徒会活動への取り組み』の成果であるととらえています。

【主に学習に関すること】

『先生の授業はわかりやすい』と答えた生徒が昨年度を上回り、教職員の授業改善がすすんでいることがうかがわれます。『家庭学習が基礎学力を身に着けるために役立っている』ことも多くの生徒が感じています。この傾向は昨年度までと同様ですが、保護者の立場からはその姿を感じとれていないようです。本校生徒の家庭学習の時間が短いことや学習の成果がテストの結果などからしか見えないことが原因と考えられます。

『自分の考えを説明したり発表したり』『よりよく問題を解決する力』については、昨年度より向上は見られたものの、本校生徒の課題であるととらえています。主体的・対話的な学びを意識した授業の構成や田毎祭等で発表の場の設定などの工夫をしていますが、生徒の自信や自己肯定感の高まりまでの成果は得られていないようです。学期末には、各教科担任の授業力向上のために、生徒による授業評価も行っています。知識・理解に偏重することなく、社会に出る上で必要な力を身につけるために、「教わる」から「学ぶ」学習へ深化していけるよう粘り強く取り組んでいきます。

【主に地域・家庭での生活に関すること】

西中生のさわやかな『挨拶』について、地域の方々から多くの好意的な声をいただいています。『時間』『清掃美化』など生活に関わる項目で90%前後の生徒が積極的な回答をしている反面、保護者の回答との乖離が見られます。全国学力・学習状況調査でも、毎年、家庭生活や地域とのつながりについて高い結果が出ています。学校での姿が家庭に十分に届いていないのか、生徒の生活が学校と家庭で違っているのか、参観日での懇談やPTA活動を通して共に考えていく必要があるかととらえています。

【主に家庭と学校の連携に関すること】

学校から家庭への情報発信について90%を超える保護者の肯定的な回答を得られました。コミュニティスクールとして地域の方々に学校の教育活動に関わっていただく機会も増えました。地域に開かれた学校づくりのために大切にしている部分でもあり、『地域の方が集う学校』でも同様の傾向が見られたことから、今後もよりよい学校づくりのための情報発信の充実に取り組んでまいります。

◆学校評議員の方々からの意見◆

学校自己評価の結果について、2月1日（金）に行われた学校評議員会で評議員の方よりの評価とご意見をいただきました。その内容を紹介させていただきます。生徒・保護者の皆様からのアンケートの結果、自由記述にいただいたご意見と合わせて、次年度の教育活動に反映させてまいりたいと思います。

【主に学校生活に関すること】

- ・「相手のことを考える」意識が育ってきている。人権感覚の育成に力を入れてきている成果だと考える。いじめのない学校・学級づくりに欠かせない教育活動であるので、今後も大切にしていきたい。
- ・「自己表現力」に自信がある生徒が少ないが、だれでも自分の考えはもっていると思うので、それを引き出す工夫や話しやすい場をつくるのが大切だと思う。
- ・喜びや充実感をもって学校生活を送っている様子がわかる。発表する力については苦手意識が高いようだが、3年生になると改善していくので、自分の考えを発表する場面を多く経験することで、力が付いていくのではないかと。

【主に学習に関すること】

- ・自分で考えて行う家庭学習をどう確立していくか。家庭学習の仕方について具体的に指導を行い、指導後の経過を見守り、定着を図る。意欲をもって学習に取り組む姿勢を育てていきたい。
- ・半数近くが1日1時間未満の家庭学習という実態ですが、宿題プラス自分で考えた学習（復習など）が少しずつでも身につけていくといい。
- ・毎日の家庭学習について、1日2時間以上する生徒は20%弱で、1日1時間未満の回答が県平均、全国平均からみても多いが、テレビ、ビデオ、DVD、ゲームやインターネット等が学習時間の少ない一因であると伺われる。子どもたちに買い与えてしまう、持たせてしまう、家庭のルールづくりを含め、その行為を一考すべきではないかと。

【主に地域・家庭での生活に関すること】

- ・道路で会った時、生徒の方からあいさつしてくれます。また、横断歩道を渡る時や渡った後、会釈をしてくれます。校内で培った態度が実践できているように思います。
- ・校外での服装もきちんとしているように思います。
- ・スポーツ少年団のOBの中学生が土日、ナイター練習などによく来てくれて、後輩の面倒もよく見てくれる。とてもいいことだと思う。

【主に家庭と学校の連携に関すること】

- ・先生の教え方について、生徒の評価が高いのに対し、保護者回答が下回っていることは、もっとももっとと望んでしまうからだろうか。自由記述では、安心と感謝が多くみられ、これが本音だと思う。
- ・保護者の評価が厳しいところがあるが、もっと学校に足を運び、学校でやっていることを見る必要がある。家庭でも子どもと話す時間も必要ではないかと。
- ・家庭学習をする生徒が非常に少ないようですが、これは学校側だけの問題ではなく、家庭でも考えるべきことだと思う。
- ・PTAバザーは活気があり、保護者も含めみんなで盛り上げていて素晴らしいと思った。

【その他】

- ・生徒のことを考えた指導は、必ず保護者に伝わると思います。がんばっていただきたい。
- ・職員が力を合わせて生徒の指導にあたっている様子がよくわかります。引き続き、協力し合ってやっていただきたい。職員の協力や和が、生徒の力を伸ばすことにつながります。共通理解を図るためにもコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ・もっと子どもたちに自然体験、農作業体験、様々な体験や技術を持つ方々とふれあい、見聞を広めてほしい。それは教員の方々にもいえることです。経験が人間を骨太い人間にするのです。

体罰に関する調査アンケートの報告

「体罰アンケート」へのご協力ありがとうございました。体罰とする定義に照らして、「体罰があった」とする事案はありませんでした。その上で、生徒への言葉がけなどで気になる事例を寄せていただく等もあり、指導のあり方に生かすべきこととして受け止めさせていただきました。更埴西中学校として、「体罰は絶対にしない」の誓いのもと、今後も体罰を根絶していくための取り組みを進めてまいります。

☆ 県教育委員会では、「体罰に関わる相談窓口」を設けています。下記まで、封書、電話、ファックス、メール等で相談ができますので、ご活用ください。

宛先：長野県教育委員会義務教育課「体罰に関わる相談窓口」宛

住所：〒380-8570 長野市南長野幅下 692-2

電話：026-235-7426（直通） FAX：026-235-7494

E-mail：taibatsu-sodan@pref.nagano.lg.jp

（文責：教頭 宮澤）